拘束種別: やむを得ず、車いすやベッドに拘束帯等で拘束する

実施月: 令和4年6月の実施状況

No.	実施日	1 ⊨	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日 18	∃ 19E	3 20 E	21 E	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日3	1日
	拘束時間	С																													7
1	取組状況	いして者が、	で就試り夕職に6床行、ン員繋	しても れて、 いすく	らる らる らる 起 を対	こ 夜床 出	を確認 は良く て他和 ている	忍 く寝 利用 る	就見くはて	すりて見、 ると いるし いた いた に れた に れた に れた に れた に れた に れた に れ	環境 し、して ない なか	き出いった。 シテージ	える。、子を、子を、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日	こまめ 見る。 くっにま	だれ 様 3 又に 良子い組	るがをくてずし有に取聞開眠も、てし向	りこけっ、笑い、け組えるて大顔る身てみて行いきた。ゆ、	「おくずいきが、体」、 帯をき動るな多会拘引く を継たは。情く議束きこ 使続りあ日緒、で等続と	中、る中の落本、き。他がの波ち人行、時者、材は着の重取	すが 様は計りかなくの概子見い状制り、タねにらて況限組	寝ン、つれ過を解み言スよい(ご共除を	継てがかし	してい ンすぐい た。 様子	ハる。 の衣類 こ職員 日中に	暑さ 夏を出 ば 、表	が影 す行 応し 情豊	響する 動等な たので かに	るのか が、 何 で、 注活し	い、夜 可度か. 【食に レてお	り間見ばり継組、ら至、続み起れら安し	きたな定
	拘束時間	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	
2	取組状況	後に体あ染い。	身体を	を導こ泄調間の東大で理学にある	ます。 さテ、が響除 せ一閉ですを	てテ塞きる継	うのる、能しいにといれた	犬こと と 身が 感高	てテ閉管能 関連性	うのしががないないである	犬せに 犬れ態 が き 、 短	、なよな体時減身りりる調間で	導力 適 に 影解 の の に の に の に の に の に の に の に の に の に		テール泄可りり	をう力が影る跳つテ閉響だ	ね伏一塞すけ、ませいます。	解るなの危能椅ら後よる抜険性子、	にとやが高で動が、あい過くあれるのこ	こりテ。ですと、一体、時	や導テ調で、尿ルにき	を蹴 身体 る。	るを反導があった。	とで、 転し、 カテー	柵が うつ -テル	破損 伏せ がね	するこ になる じれる	ことか ること ること	があっ : が確 : で、	べった。記事法を対象を	たる

No.	実施日	1日	2日	3日	4 E	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日 31日
	拘束時間																														
3	取組状況	確認 努め	しなれるこ	がら、 とし就	拘 龙床	観察時 東 新の 未 実 施	の削減 援を引	載に 蛍	確努化しの	しながる 体調が ひこれ かいしん はいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし か	がとがすが ら り 安こ 多 こ か こ か こ か こ め た り た り た り た り た り た り た り り り り り り	く拘床せあっ過観束前ずりたご	時 の 、 、 の	の 援 中 前 こ の	域 魚 は 味 気 り り り り り り り り り り り り り り り り り り	確認がいる。	しなた 体調が 強い B	がとがまる いなない がこ安こが はなる	拘束がませる。 対象がある。 対象がある。	時間の の う り た の た の	、の爰中就でた安削をも前、。	伐に 食 人 氏 民	拘束化。	時間の 体調が り、記	D削減 が安定 扰前も	ぱに努 €せず J眠気	める 、日 の強	ことし 中も氏 い日か	、就床 从床し	前の て過	ながら、 支援すで の
	拘束時間		В	С			С			В					С		В	В	С						В						
4	取組状況	1,4,7 (八) (1,4) (5日は 5日は 5日は 5日は 6日は 6日は 6日は 6日は 6日は 6日は 6日は 6日は 6日は 6	未、分か除てたのかない。	実入をここまで、施眠がることにいい、	・	ド型実。落が でした。 多ち確保	た時るはかで	税8,た点るは確	又12日夜 12日夜日 11日夜日夜日夜日夜日夜日 11日夜日 11日夜日 11日 11日 11	とは勤の外認かる。で安すかっ	体取実入全こ遅たっくりが明まりますのとくのた	祖でをめなり、	を床でした (表が) とまで (表述) という (でん) にいう (でん) にいいう (でん) にいいん) にいいう (でん) にいいん) にいいう (でん) にいいん) にいいん (でん) にいいん) にいいん) にいいん (でん) にいいん) にいいん) にいいん (でん) にいいん) にいいん) にいいん) にいいん (でん) にいいん) にいいん)	®き たす も日 を も日が	2人後:15,19 1人でベル	支援を 9日は (勤で 身体の トをタ	をする 、未! も入! り安全 トすこ	取り実施で眠るできる。 まんこう まんしん こうしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん し	組みで就味を認いしている。	,た時, 実施す , 20, <i>1</i>	E。 た。 点 「る	2人がりでいる。	組みる 床です ベル	を実施 きた。 トを対 忍まて	E。22 1人A トすこ 5の36	1,23,2 友勤で とを 6分間、	25, 26 きも入 敵底。	, 29, 3 眠を研 24日	0日は 確認し のみ、	: 接をする : た : た : た : た : た : た : た : た : た :
	拘束時間																														
5	1 HV #U 1 A 1 Tr 1					かった は、未						^ヾ なか 可束は						-			ので、 実施。			子の 、未写	1 1 1	がなか	った(ので、	この	期間(の身体拘

No.	実施日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日 31日
	拘束時間	В	С	В	В					В	С																				
6	取組状況	人のいる	拘り:	もあり 折、自	し、使	ベル 用を組 して	継続し	てる	の拘	りもa 時折、	あり、 自ら	使用	ベル を継糸 て行動	売して	こしい	車椅な場合								子の <i>^</i> してし			通院印	寺・必	必要な	場合る	を除き、
	拘束時間	Ε	E	Е	Е	Е	Ε	D	Е	Е	Е	Е	Ε	Е	Ε	Е	Е	Ε	Ε	Ε	Ε	D	Е	Е	Е	Ε	Е	Е	Е	Е	E
7	取組状況	をしがる ・	って(職員; 「ズ; 他利!	ハる。 が見守 ボンを 用者を	日中 り、 下 で で て て く	りべ過す」を	トをが して傷を とがま	ト いるす らな	を行いがる・	ってい 職員だ 「ズオ 他利月	いる。 が見守 ドンを 月者を	日中 り、 下 い で り く	りべ過す」を	トを外 し 自傷が と があ	トるするないな	毎をしがるりい日行、、・、。	って 職員 「ズオ 他利月	Nる。 が見 だ 対 者 を	日中 り、 下叩く	ベル 過 す 」 こ	トをがし し り し り は が あ な る も る も る も る も る も る も る も る も る も る	いるます	日中· が、	ベルト 「ズオ	〜を外 ドンを	し、 下ろ	職員 <i>が</i>	が見守 自傷を	Fり、 Eする	過ごし ・他和	ている。 している きている と さている
	拘束時間	D	С	В			С	A	В	С				В	В	Α		A			В							A	A	Α	A /
8	取組状況	づき 除に	、安 取り の抑	全に留 組むこ	記 ことで	て、	卯制帯 食時・	詩解 タ こて	づき. 除に	、安全 取り約 の抑制	全に留 狙むこ	意し とで	て、非	卯制帯 食時・	・解 タ		、安á り組む	ここと	意し で、	て抑制 朝食	制帯 時、ゟ	解除 7食	意し	て抑制	削帯解	除に	取り約	狙むこ	ことで	、朝1	を全に留 食時、夕
	拘束時間																														C /
9	取組状況	ベル 3日~	トの(~ 入院	更用に 中。	はない	o			 入院 [.]	中。						入院「	‡ 。						概ね。性の		5着い 寺や、						・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

拘束種別: やむを得ず、手指の機能を制限するためにミトン型の手袋を付ける

実施月: 令和4年6月の実施状況

					•							-								10日	•	•						07.	00 П	20 🗖	20 🗖	21 🗖
No.	実施日	1 11	2 日	3 日	4 🏻	5日	δД	/ 日	8 日	9 🗖	10日	111	12日	13日	14日	15日	10日	1/日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	20日	2/日	28 日	29日	30日	31日
	拘束時間	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	
1	取組状況	り組んに、	み緒る解自、ながにはいる。	継客と寺う人続ちで間為の	夜い自確確子の保認を	制帯い行すさ見う限はる為るれ守。	、入明で 状況で に 変配 ること	民で,っ遅とで	り組 を行 る。	みを い、- 日中に など、	と迷っよ 余 る続定、自時 、。の歩ら間	夜間 時間 行活 手指	就寝のを確し動せ、	時 の い た い た れ て う 活 動 活 し れ て う た う た う た う た う た う た う た う た う た う	双除いつを かを	組後あこルし観み、りとテて察	を情、が一実に	とが易きョントに落行てンてなのしか	動間着にる取るら制帯いよ。り。、	にてるま組今にのできまれる。	施る傷 . をも 。こをコ 、 、 が . 私材	しこ方レ迷様眠もぐサ続子	の状 自傷 日中 等)	態を 行為 は 、 が あ	確認し こよ 解 る る て	なが、受傷に配	ら解 を、「 傷行 慮が」	除する 防ぐこ 為 必要で	ことが 見のあ	で、f でき に指	、解でを手組している。	きの う。 いる
	拘束時間	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	
2	取組状況	れる すこ 外の	行為が とが 受傷で	があり 多くな	、最 つて なが	を臭いる。	鼻血を 。手持	を出 旨以 D取	両腕. るこ	上腕部 とがま 行動制		き壊 。受	し、b 傷をN	出血に 坊ぎな	が経	爪た出傷る	掻き、 同がより、	傷を 動所 もの 傷所 もの 傷の 気の 気の 気の 気の 気の 気の 気の 気の 気の 気	となる。	こ続ける	があっ るので 司様σ られて	っ で、 O自 こい	とがで傷	続い の治	ている	。 と な	前と[い。(司じ個	動所を	掻きり	血すすなか	٤

No.	実施日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日 1	8日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	拘束時間	D	D	D	D	D	D	D	С	С	D	С	D	С	D	С	С	С	С	D	С	D	С	D	D	С	D	D	D	С	С	
3	取組状況	ミ人のを	ンをタ 好むi 図りク	きれ音なて	:いる :提供 、解	。日 し、'	中は、 情緒 <i>0</i>	本 0安 Iみ	時間す。	帯に、 人が少 を提信	ミト かなく せし、	ンを 、静 情緒	外し かな の安	就で環定。	jの : : : ! !	提ら事に手捻性に供、前、・るが、	しき後不胸」高いたいないというできます。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	安の動やみ伐お定軽きすかにい	を減がいかつて図を多。りな、	り図い「」が一なる時他「る時	(食)のを能	る」 一時や 音楽	用「的、をり	膏の胸 ミトです はする	元にを養える	掴み ⁷ 用し いてi	かかる ている 過ごも	る」等 る。日 ta場	中は	奮時に 、個別 準備し	こ、 リ散 ノ、

拘束種別: やむを得ず、行動を制限するために介護衣(つなぎ服)を着せる

実施月: 令和4年6月の実施状況

No.	実施日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	拘束時間	С	С	С	С		С		С	С			С		D	D	С	С	С		С	С		С		D		A			С	
1	取組状況	ない。は、	々やするがるがあるが	おに午子気れ で変前もにる	更中に見る	る。 、衣タ れるス 様子ス	排便の 類を脱 が、1 が少な)起 ご 後 い	ない と、	々結び やする材 を がみが	バに変 v午前 様子も を気に	更すに見る	る。 、衣 れる 様子	が排類ががをは便を、少継との形午な続)起 ご き い	さまりと、	々結で やする する類が みがみ	がに変 v午前 様子も を気に	更中見すい見る	る。 、衣 れる 様子	が排類ががをは便を、少継のは便を、少継のである。	D 起 ご 後 い	更ずうにす	衣るとるての。す様い	‡便の 6様子 そが少	起こ -も見	りやられ	すい ⁴ るが、	F前中 午後	に、は、	衣類を 衣類を	と脱 と気

拘束種別: やむを得ず、支援者が自分の体で利用者を押さえて行動を制限する

実施月: 令和4年6月の実施状況

No.	宋 时 间 : オ 																											27 FI	28 FI	29 FI	30日3	1 H
	拘束時間				. д	ОД	o II	, 14	0 1	I		- Н	ТЕН			101		., 🛏	П		201	2 1 PI		20 д	211	год	год	2, д	A	2011	оод (
1	取組状況	「備」の扱	居室で や 「 提供に	滅に同	して	がませる。 で楽しい でど、:	る環境 めるE 身体丼	竟整 日課 句束	ある場の身体	た。 境整値 日課の 拘束原	「備り発中身居」提止で体室や供・あ	で居に 軽減	心し 室以 める	て過こ 外で楽 」なと	ごせ ぎ え 知	あ環める		「居室 計」や ひ提供 逐止・	で居民に軽減	心し [*] 室以 める ₋	て過こ 外で楽 なと		すと	いう 繰りi	ことか	〝続い	たの	で、耶	銭員が	間に、	触って 入って 〔 間手を <u>〔</u>	制
	拘束時間																						Α	Α								
2	取組状況	あごど	った。 されて も、粗	は、りまれる。は、ほうは、のは、ある。これを持ちます。	間は、 些細 等に	落ち まなイ 至ら	着いで ライラ ず、関	て過 うな 関わ	あごども	た。これて れて 、粗暴	よのり行替の場合を	は、 些細 等に	落ち なイ 至ら	着いて ライラ ず、関	で過 うな 関わ	あごさ	期たれ粗切のはままで	この間 3り、 5為等	は、 些細 に至	落ちず なイ らず、	着いて ライラ . 関れ	過 な り	その	際の制	组暴行	う為に	対して	て実施	也。寮	外活	となり、 動をい	

No.	実施日	1	3 2 E	3日	4 🗏	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日 31	日
	拘束時間		А	A		Α	A	A					A						A		A								A		/	
3	取組状況	てに得し為いやに現けも、	【 でっこ易り 生な 皆 が会行きの対面と終のい繰し 納話っな不しがり結対こりて	にてか満てあにす応と返よいっに、るてるをでし	るると対印(二売あ売りがいりしえ一粗とけるけり、、てた方暴もでとた	り てようくらつ ことやも出けで行増つのりしるれ、為え、メ	をとく、ば会にて暴ッ中りは粗な話至い力セー	いこ可展うでうるよう納か行なのず。いジ	て行きの対面とす応と、っな不しがりるをで	会てか満てあにこ続あ続話いっに、るてとけるける。	こると対印(しつと)よがりしえ一粗増つのる、、てな方暴え、メ	ややも出けでにて暴ッりりしるれ、至い力セ	ととく、ば会らるは一りりは粗な話ず。いジ		いけっちゃらとり、燥いでらに場り結対こり	本て行きの対面と終のい繰し人、つな不しがり結対こりて	会てか満てあこす芯と返話いっに、るてるをでしてるためれる、これを終め	こると対印(こ売あ売よがりしえ一粗とけるける、、てな方暴もつとな	ややも出けで行増つのりりしるれ、為え、メ	ととく、ば会にて暴ッりりは粗な話至い力セ	をこ可暴らでらるよう中納か行なのず。いジー	ひ骨っ為いっこ見するにでらに場り、在な、	りき出場暴ののとなる面に対メ	りか、が至応するがいますがある。	中に暴るだ売し心り行。にけジに、為一、つも	行もに対を結っている	てくし、す暴いはて会る力	る何、話こはが、 がしれてという	やらなや増ない	と不れとてこり活じいと	ここになこるで解よ納対らて。あ消る得しな、現るを	でてい祖王」
	拘束時間																															
4	取組状況	「備」の廃中発	カ居 是上で与っ 期室や供・あやな 間で「に軽る、が	安居努減。物にイ品の	こみる句ラ波で外したない。	過ぎよれている ご楽ど取感あ せし、組でる	る環境のは	竟日句実を 整課束施な	「備の廃中発」	室や供・あや、経験の	安居努成、勿心室めにイ品の	て外」ける。 けんしょう かいりょう いっぱい はんしょう いっぱい かいしょう かいしょう かいしょう かいしょう かいしょう かいしょう かいしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	ご楽ど取感あい。	- 未るめ身みのが実環る体を大、 旅域日推実き推	きまります。	こ「備の廃中発にの居」提止で声つ	室や供・あや、野に野る、	安居を成 めい 一 の を の で の で の で の に イ 品 の に イ 品 の に ラ 破	て外」けイ壊りでなたうも	ご楽ど取感ある。	る環 ^切 する 身体 か か た う で う で う で う で う で う た う う た う う た う う た う う た う た	竟 ヨ 東 東 施 な	て課向さ	ごせる 提供に た取糸	る環境 に努め Iみを か物品	き整備 うる」 と実施	i」や など i中で	「居室 、身体 ある。	≅以外 k拘束 イラ	·で楽 廃止 イラ!	でし・惑ないをいる。	目 こ 大

No.	実施日	1日	2 E	3	日	4日	5	日 6	6日	7日	8	日 9	日 ·	10日	11 E	12	日 1	3日	14日	15 E	16E	17	7日 1	8日	19日	20日	21日	22日	23日	24 E	∃ 25	日 2	26日	27日	28日	29日	30日3	1日
	拘束時間																																					
5	取組状況	こ不と楽替つの安いをえな	定っ提し	に 場 は す る	は 面 る る	「切いと	室を持たり	へえ 気外体	動すの切り	る音りに	不と楽替	か安かをえな」が、	寺に歩す区	は、 歯面の るこ	「別 り切り ことで	民室/シートラー シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シ	へえ気身 気分体	動すりの切束	る音りに	不と楽替え	定時かった。	には場する	は、 面のt るとし るこ	「居り 切って、	室へ ^を 替え _・ た気な 、身(未移」分体で実動やの拘い	ける T 可り に	「居 「音	室へ 楽を とで	移動 提供	するする	とし	ハっt ハっt	:場面 :気分	ii の切 } の切]り替]り替	時には え」を を行っ	図
	拘束時間																																					
6		「落	員ちでが拘束	のかるで廃」	コたまままる上	ュ 境 環 援 を	-ケ-)提信 (で) (で)	ーシ 共	ョなとと	/」 · · · · · · · · · · · ·	「三字」	の職客心し本を 関員ちでが拘実	と言き寺東のいるて廃)コミ) た は 注 る よ を 上 る ・	ュニ 環境 <i>(</i> 環境 援	ニケ- り提(竟の! を行っ	ーシ 共 提 決 こ	ョなとと	/」 · · · · · · · · · · ·	「安通りは、	員ちで持	のいるて廃山	コに環境主活を支払し	ュニ [・] 境の 環境 援を	ケー 提供 の提 行う	大実っなととたり、	ノ」 ご、 見 ご、	ミュ ど、 る支	ニケ 安心 援を	ーシ でき 行う	ョン る生 こと	′」 活環 で、	「落 <i>t</i> 環境 <i>d</i>	5着し D提供	ヽた環 ŧと、	環境の 見通	と の は 供 が 持 減 に 向	て
	拘束時間																																					
7	取組状況	備」	に「関に東に、東	るちを医止	も青寺寮のいてと	をでるの。	ないない。	すなた。現たりでは、	境がはい、	興と身	「備」と体	の気」・も均実期に「関に東施」では、原で	は客い、廃止	もの 着 持 た 療	を行る。	或	す 環 た 提よ	境がはい、	興と身	「備味と体	にな 「落 関心 に、	るちを医止・	もかる	を減 て楽 るも の連	らすり しむが めい 携に	未環た提よた実境の供り取ります。	を興と身	を減 味・ の連	らす	環境 を持 より	整備てる] もの	「落 <i>‡</i> のの打	ら着し 是供」	ヽて楽 とと	いましむ。	なるも ために 、 医療 けた取	興と

No.	実施日	1 E	2 E	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	拘束時間																															
8	取組状況	覚的整備に向	に伝ないた、	えるプ ど、身 取組 <i>み</i>	の法が対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	「生》 東廃」 施し ⁻	活環境 止・軸 ている	元 竟の 圣減 るこ	覚的(整備 ₋ に向(こ伝えいない。	える方 ご、身 又組 <i>み</i>	法」 体拘 を実	「生》 東廃」 施し ⁻	上• 轁	意の 経滅 た未	覚的(整備) に向(に伝えいた取りた取ら、こ	える方 ご、身 又組み	法」 ・体拘 ・を実	「生》 東廃」 施し ⁻	ールを 舌・ ほ・ で 東 は	の 減 こ	法」減に	「生》 向け <i>†</i>	舌環境 た取組	で 日 みを	ジュー 備」が 実施し 実施。	など、 してい	身体	拘束	廃止・	軽
	拘束時間		A			A	A		A	A	A	A	A	A	A							A	A					Α	A		A	
9	取組状況	は帰ず戻たは設れで、	帰後ホて見寮てが他寮に一い守内い、者	し、ルたりのる取とな居デだ体居。組のは多くの	買い屋(く削屋とみ捏てま取にンこが外のをまいで組戻グと十で際継しく	みるのが分過、続いをこ上あとご他す関	継と、るれす害る、続が居。る時はなりのでいる。	中で室ま祭引えからきににをら	10は帰ず戻たは設れで習時、寮、つ、、ける、得	帰後市で見寮でが他寮に一い守内い、者	レーレミリのる双ミな居デだ体居。組のい室ィく制室そみ望	取にンこが外のをま組戻グと十で際継し	みるのが分過、続いをこ上あとご他す関	継と、るれす害続が居。る時は、中で室ま際間見	。きににをらいの	は帰ず戻たは設れ、寮、つ、、ける	帰後ホて見寮でが他寮に一い守内い、者 し、川たりのる耳と	ン レニリの ななだれ な居 デだ体居 。組のい室 ィく制室 そみ望	取にンこが外のをま組戻グと十で際継し	みるのが分過、続いをこ上あとご他す関	助継とこるれず害るわ時続が居。る時はなり間中で室ま際間見か方	。きに にをら	組ずこはの際	をボが寮、他者の	続中。 中デっる 居は見	帰かたいでれ	の後の見過るい活に上守ごが関	居室 日居室 上 は は は は は は は は は は は は は は は は は は	Eに戻 Eに戻 Iが設 Iみを	るっとけば続い	といれた がたる るるる なる	きくにそか

No.	実施日	1	日 2	日	3日	4 E	5	日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日 31	日
	拘束時間																																	
10	取組状況	をえへかの代	計 希 る 向 見 確 等 よ から えん から 認 で る	さとうれの対応れか」た線応	しず こりしこ 来物 ス返た	となりなりません。	がいまごさん	りこ _ 一支レ 、、等ル援デ	す「のボ員ィ	ご 者為ド交グ	本等「すル等図人で壁る確でっ	用、けこ認対たの納りとの応。	マ导・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(時他っし面デーを間者たやのィ	布がへ。、切ン団か向ス職りグ	ド)かかケ員替に)のりおジのえよ	を うっと きる	母らがい等ルいホ行となっとがの、一わ	くた、出確場ルなり破る認面デ	っし衷 等りてたてや見で切ンりい、守、りグ	、る他り行替の者が動え	動発の人のを図れる	囲がかケ正っが叶うジをたった。	え つな 「動 」 「	「たでをり、	る 「 衣 っ 本 っ 本 で 来 で 来	垂てるものという	tく・ くる うこ うこ うこ うこ	噛やにでー	を洗るでいる意図的に戻る。	等しいようによう	行為7 汗と異7 面転支 、	しがかな奐爰わてあいるををないった行図行かって	助 o
	拘束時間																																	
11	取組状況	て違らてこじ	人、うなきと声ィがユ声かてが掛ン	ニ卦っあった	トをよ員たしいにしっています。	戻る。	ると、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	いがに強つ。	つ気に対します。	と入っる同	よとにい字・	でる慮とフ。	丘がてこう	いた いる。 : を視ト	職。「覚で員声人的紙	を叩さ のかけ を叩か に、プ	こう方な で えて	概ね。 い。							の訴	えがま	多かっ	ったの	で、	文書に	こより	説明	* 職員/をしてい。	喜
	拘束時間																																	
12	取組状況	落デ	ネち着し ディング	ハてゲは	生活	もしてし	こいないない	る。 ,ヽ。	ホー	ール	落ち ディ		_			。木- 。		落ち						ール		着い ^っ ない。		舌して	こいる	。木-	ールデ	゚゚゚゙ィン	グは行っ	D

_{拘束種別:} やむを得ず、自分の意思で開けることができない居室等に隔離する

実施月: 令和4年6月の実施状況

1-0	東時間:オ															-																		- <i>i</i> —
No.	実施日	1 [2	目(3日	4日	5 E	6 E	 7	日 8	3日 9	日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	拘束時間																																	
1	取組状況	居留や居	室で安 民室以 子める	い外なる	して で楽 ど、	過こ し 身 体	ごせる つる日 k拘束	未実に環の意味を	整備 提供 • 軽	情 に に 派	一の宝宝を表しています。	安心 以タ る <i>た</i>	ンして トで楽 など、	過ご しめ 身体	せる る日 拘束	環境 課の挑 廃止	整備 是供 • 軽	居室 や居!	で安心 室以タ めるな	ンして トでき など、	→ ・	せる る日 拘束	環境 課の排 廃止・	è備 是供 · 軽	過ご供に	せる! 努める	環境整 るなど	整備や	居室!	以外で	ぎ楽し	める	 安心し 日課の 向けた)提
	拘束時間											С														A								$\overline{/}$
2	取組状況	あごども	った。 されで も粗暴	こ に ま 行	の間 り、 為等	は、 些紙 に至	落ち #なイ	、関	て追 ラな	はなり	舞らかげ JU りん 実 、り の 職施 再替	員 ~ 。− 度、	への粗 −旦、 実施	暴行 解除	為が する	激しし も収ま	いたよら	あごども	た。こ れて 、粗暴	この おり、 暴行な	身体は、海がが、海のでは、海のでは、海のでは、海のでは、海のでは、海のでは、カードのではは、カードのでは、カードのでは、カードのでは、カードのではは、カードのでは、カードのでは、カードのでは、カードのでは、カードの	落ち なイ 至ら	着いで ライラ ず、B	をで過ぎる	奮そこが使かのとっ用	ら後なてに	暴行ない とうしょく こうしょう しょうしょ しょうしょ しょうしょ しょうしょ しょく はんしょう しょく はんしょう しょく	為スフヒよ がメラも、 激ンス捉い	しトトえった	なった て、ショ た に 保 る	こので い泊が いでとし 習とし	、止、カ、実ま期レ寮	れ施っ待ン外討るしてにダ活中、たいつ一動。	こ。 いる oな -の
	拘束時間	E	E		Е	Ε	E	D	/	4					A		A						A								A			
3	取組状況	対点		ノミ	ュレ			- (向け [*] (等の:		y カ	して	た。りと	実施 : りに	月は よっ	、粗 ても	暴行為収まら	うを 為	きる 完全 暴行	と判践 開錠と 為が、	がなった。	ー 行評価 れた。 おと り 時の判	以降 室施 によ	、夜間 錠は、 っても	引は 粗 も収	た。は、	以降、 粗暴征	を で う 為 <i>た</i>	間は、 が、や	完全し	開錠と りによ	: なる : って	。居	室施銳	Ė

No.	実施日	1 [3 2 E	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日3	1日
	拘束時間	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	
4	取組状況	暇室で取入睡行拡	日舌以 組織民い大組中動外身み員状、・ん活でで体をの況日身で	生の拘実夜に中体活活束施勤よも拘	の効廃し安っ含を幅を止て定てめ廃を増・いに、て止	拡や軽るよ夜、げす減。り間開	る」にま、の錠いのによりのでは、	「上けー人淀別居」た転のをの	暇室で取入睡行い組職眠い	動外身み員状、身でで体をの況日体	上の句実友こ中句活活束施勤よも束の動廃し安っ含廃	幅を止て定てめていて、て	間拡や軽るよ夜開向拡げす減。り間錠け	る」にま、の時間のようのは、	こけ、した転のを拡	暇室で取入睡行拡活以、組職眠い大	外身み員状、	上の句実友こ中本 活活束施勤よも拘 の重摩し安っ含束	の加軽しての名詞に帰を止て定てめ廃る場・いに、て止	拡や軽るよ夜、げす減。り間開	る」にま、の錠いのでは、	ナ 大 転のをの 引の	幅でての含	拡ける眠て、ほのでは、	る」 句東廃 また、 兄によ	「居産・私で間室・入での	軽減(職員の 、夜間	での活 に向け の夜 動の	舌動を けた取 助安定 閉錠を	増や 組み によ 行い、	ですをり、こ生」実、日向活こ施本中け	とし人も
	拘束時間														В												A					
5	取組状況	不と「切切り	り替え こつな	には、 場面 <i>0</i> 提供す 」を図	「居 り切ると 図るこ	室をえいった	移動す 」や、 た気タ 、身体	する 分の 本拘	がめ定い楽替	為っ、にた提」た居は場供を	「ひ室」面す図でで施「のるる	へ切を室りいとのり実へ替っで	一へ頭替施移えた、行の突えし動」気身っ	きをたすや分体がある。	られて こうしん こうしん 安 音りに	こ不と「切束るの安い音りに。	った ^は 楽を 替え」	こは、 易面 <i>の</i> 是供す を図	「居 り りるこ 図るこ	室をないとで、	移動す 」や、 た気分 、身体	ける }の 体拘	えを た。 面の 分の	図るが 不安況 切り む 切り	ために 定時に 替え」 替え」	こ、短 こは、 や、 を図	時間で 「居国 「音楽	で包含を扱い	居室施 多動す 是供す	錠を!ると!	・実いいこりしたたな	場 気

No.	実施日	-	1日	2日	3日	4 E	5 E	3 6 1	3 7	7 日 8	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日3-	日
	拘束時間	1																С							С	С								
6	取組状況	2 岁 道	「職場 「落ち とした 通した	員者で きき ・	カコジャン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン	ミュニ 環境 <i>の</i> 舌環境 支援 <i>を</i>	- ケー) 提供 きの扱 e 行う	+ 未シ」供こけ	ンど、で、で、	見 気 組	「職業 「変通」 を通り体力	員との ち着し できる が持て	つコミ いた生活 る生を を止く	ュニ 境の 環境 援を	ケー 提供 の提 [・] 行う	 実ョなととた 放こと、て耳	ノ」 ご、 見 ご、	暴図たンどとと	は為た「「安見、組、がめ職落心通身み	あこ員らでし本つ、と着きが拘	の体コた生て廃で拘ミ環活る止	、東ュ境環支援で	り実ケ是のをおしまります。	えっと、共うというというという。	為 東 下 環境	あった 実施 ち着し の提	たので した。 いた 供と、	で、切 「職 環境の 見通]り替 	えを の 」 な た	図るた ミュニ ど る 支援	かに ケーで そを行	の、シきうを 粗身ョるこ実 暴体ン生と施	句
	拘束時間]																						A										
7	取組状況	がいます。	「気! 構」 興味 ことも	な落りに東京	る も 着 を を 医 止	りを洞 いて第 寺と <i>の</i>	或らする いともの ひきもの	- 未環たのにけ	整に供り、	、 (f) 」 (f) 祖 (J)	「気」	こなる 「落ち ・関心	る も 着 を 医 止 廃 発	を減べてるの	らしも連携	未環たのにけまります。	と こ、 サ J	た施環め提よのし境に供り	はでた整、」、組、、、。備興と身み	豆「 未と本時気「・も拘に落関に	でなる着を医止	身体が持っていた。	句束を を 楽 し も 連 り も 担	ますたのに	を減果との	らす! ・関/ 連携!	環境 むを持	&備」 まてる リ、身	「落 もの	ち着し の提	ハて 楽 供 」 と	€しむ : とも	なるもく ために、 に けた ほ	寮

No.	実施日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日 31日
	拘束時間	С	С	С	В	В	С	С	В	D	С	D	С	С	С	С	С	Α	D	С		D	С	С	С	С	D	В	В	С	C /
8	取組状況	覚の減がる	に伝え 備し 本とが	なえなたがあすでるど取施るよ	法身体をした。	、拘実はでは、	生廃しいを掛ける	環境・軽いる	覚の減がる	に伝え 備 し が も が も も も も も も も も も も も も も も も も	えないがあるが、など、など、など、など、ないがある。	ス法身みし途に かんしゅう スカー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カ	、「st 拘束が 実施し まして で声る	生発しいを掛ける	境軽るえ	おり 提示 など	、身体 による 、身体	本拘束 る伝え	は未 .方」 .廃止	実施。 「余	ち「天援」	物 ミ」] け	法」 軽減 錠し	、「 <u>た</u> に向い てほし	t活環 tた取 _し いと	境の (組み 訴え	整備」 を実施	なと 更して : があ	:、身 :いる :る。	·体拘 が、	・ ええ 表 を 大 を 大 を も で 声 を も で 声 を も の の の の の の の の の の の の の
	拘束時間	Α	A		Α	A		В				A	Α			В						Α				Α			Α		
9	取組状況	着い 「現 支援	てお !物提: 」な	まり示ど取 取り いに り り り り り り り り り り り り り り り り り り	∤体拘 る伝 ∤体拘	東は え方 東廃	未実が 」「st 止・輔	^各 ら も。 余暇	取組身よる身体	みに。 拘束に 伝えフ	よって ま未 方」 廃止・	•13 落。 茶。 余級	着い ^っ 「現物 支援」	ており 物提示 」など)、 に が、 紅組	はい、 り、 い た ど、	取組み 身体対 よる付 身体対	りによ 句束は 云え方	って 未実 」 止・	落ち 施。 余暇	• 20日 「現 で で で り で り で り で り で り で り で り で り で	お 提 な	取組 施。	みに。 「現物	k って 勿提示	落ち によ	着いてる伝え	おり 大 」	「 「余	·体拘克 跟支护	80日は、 東は未実 爰」 を実施
	拘束時間															С															
10	取組状況	この、	期間(未実)	の夜間	∄は、 ≟ごせ	良眠てい	できてる。	てお	日あ日がか	、2:0 たが、 いて、 いて、	Oに 再が 起る こ	さく、す	開きる。 は き し は う く 、	る,12~ の咳、こ が、この	が 14 2 3 3 3 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	りて、は、	夜間に 居室が 解除 と	は、医 施錠を :なる	務課 実施 。そ	からした。	の指示 、16日	にに	こと	があっ	ったが	、す		入胆	でき		を開ける で、この

No.	実施日	1	日 2	日	3日	4日	5 E	6日	7 E	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日 18	日 19	9日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	拘束時間																																
11	取組状況	て体るが人	い制状でとるを態きの	。つでて對	を内で、 ない かい ない かい	きる 終日 を 着 し 集団	職 、て活、	を通り	守いとし	て体るが人	るを態きの関す	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	も終着集広	職の経済のでは、	の見で でいこう しょう ひまい ひまい すいしょう しょうしょ しょく かいこう しょく かいこう しゃく かいこう しょく かいこう しょく かいしょう かいりょう かいり かいりょう かいり かいりょう かいり	けいと、、	て体るが人	るを を 能きの 関わ	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、日い団げ、	員解記動楽	り見てご通べる。	りいと、	も、 いる る。	職員 状態 集団	の見 で、 ^落 活動 <i>を</i>	子り体 客ち着 を通じ	制を	つく! 過ごす との関	り、終 すこと 関わり	8日、 :がで !を広	- ・ 察錠て、 ・	て
	拘束時間	()	C	С	С	D	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С		С	С	В	С	С	С	С	С	С	С	С	С	
12	取組状況	は行中る時す	、い。際間る活、まにをな	動帰たは設かて	林 見寮で、	見いりのる者を取体居。と	食組制室取の外組望	動活を十でみまい時動継分過をしく	室続とご継いで、れず続関	は行中る時する	活、まにをない。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・いりのる者を取体居。と	食組制室取の	活を十でみまる組織分過をし	室売 ご 迷ゝで で れす続関	は行中る時する際間る	活、まにをないます。	・・寮 ナで留半休し見寮て、得頃憩な守内い他を	昼取体居。と食組制室取の	をおがれている。	野継分過をし 室線とこれし	これず続関	昼中 の居 続	を活きたっ	動室で 、見で で過ご	ご行い 守り体 ごす時 他者	、帰 制が 間を	寮した 十分 と 設けで	よい取 とれる ている	y組み 6際に 6。取	・をは組方体継、みの超縁寮を習	i K内 i:継

No.	実施日	1	3 2 E	3 E	3 4	日日	5日	6日	7 E	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26 ⊟	27日	28日	29日	30日3	1日
	拘束時間						В		A							С																С	
13	取組状況	活備い間のりる。		て資量状く時も、材が況不薬、	職の増が調の日	員運えたる と搬ていな用	一作いてるもれます。	こ等 ふとって なんしん ほうしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん は	竟を テントラン・ファック かっぱい かいまい かいかい かいしょう かいしょ かいしょ かいしょ かいしょう かいしょ かいしょう かいりょう はんしょう はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんし	活備い間のりる	と、活早大不	て動量犬く寺も、資が況不薬 、	战力を 関の え続に は は は に は に は に は に に に に に に に に に に に に に	一搬いてるも	↓ もに業。るとっしに環等起もはて方値歩を500減しの	竟整 を を で し し し し し し し し し し し し し し し し し	6活備い間のりるを月動や、が、、。広	と、活早大不今し活動いき穏後	て動量犬く寺も、資が況不薬、	ぱのえばいな用と運ていな用	一搬いてるも	に業らるとってりませる。	竟整 を行う の が、	員い 続り、	一緒 活動 ている 不穏	こ環境 量が増 るも <i>の</i> 持薬 <i>の</i>	竟整備 曾えて O 使用	や お い 大 き !	動資。 。起 く不	材の選床時間 ま時にないる。	፱搬作 引が早 よるこ	し業いともて等状は、	行 が
	拘束時間																																
14	取組状況	るは実室るる	調・見施の対余定 面落ら。扉応暇を	着る不閉を増	のの持て用す	ない変気などない。	や を を を を が ら 、 く が ら 、 く う く う く う く う く う く う く う く う く う く	也害? 対応とり楽し	う 為 未居 えめ	るは実室るる	落ら。 扉 に 。 扉 に し	音ものの おも穏め併や はなける	なの薬、しこさ、の気なと	や旋活分が	考他対」切、気を害応とり楽持している。	うまに 為未居えめの	体るは実室るる安調、見施の対余定	落ら。扉応暇をれてをしまる。	音もののの おも穏め併せ もも	なの薬、しこさ、の気なと	や旋流活分が	他害行 対応とり楽 し	う は 「 は に き た に え め し れ に れ り れ り れ り り り り り り り り り り り り り	なさ 未実 て、	や、 施。 気分 る余	他害行 「不穏 を切り	テ為は 急持薬 J替え	、見ら この活 こる対	れる 用」 応」	もの <i>の</i> と「居 を併用)、施 室の 引しな	_ ち錠扉が定を応閉、図	は め 楽

No.	実施日	1 E	3 2 日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日 1	8日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	81日
	拘束時間			С	С				Α		В	С			С		В					В	A		В				Α	В	С	
15	取組状況	やらが員が意	に内間えか要的気に容にたかとは	がか。わと職をいるというという。	つ、の会考関で不変がえれ	以調更減らる降ににつれ機	、な加たる会	ちこ とで作かと職 、	やらが員要的	に内間えかと職の、容にたかし員安	が変け日る考関れて 誤機えれ	っ、の会らるて不変がれ機	以調更減る会になった。	、な加たで作りるえこ、り	かと職が図気	やらが員要的に	内間えかと職ないとし	日がいってととおりています。これでは、日本変け日る考関を「日る考別を「日の考別を」といる。	ったの会らるで不変がれ機能	以調更減る会にたった。	女るえこ、りかるえこ、と意、	かと職が図	わこる機で、	て以ばが増え 会が対 意図に	降、 ゟ えた。 減った 的に 聞	7 方 日 記 員 と も も も も も こ も も も も も も も も も も も も も	ら夜 の変 が、	間に <i>た</i> 更にか 要因 と	♪けて □え、 こして	、不認 職員の 考え		るわの
	拘束時間				С																											
16	取組状況	り自る態をくてず、	の調居子合め4ら眠眠な子室もわる日うれる	がの見せよはこな高扉ら、う、とく	な閉て常関間拘っつめい場わにりて	た、る面り居、しり部。でを室落ま	、屋本成続をちっ逆に人功け施着たの	ここの本で定いの、も状験いし	り自る様に	の調居子合めております。	が高く D扉を 見られ せ、E	なかれています。	たり、 の る。 面で	、逆に 屋にこ 本人の 或功を	こ、 こも ひ状 本験	り、 自 る 様 ・ 能 に	調子 <i>た</i> 居室の 子もり 合わせ	で高扉ら、うで高扉ら、うで高扉ら、うな	なり、いまでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	たり、 、部 る。 で	逆に 屋にこ 本人の 成功は	こ、 こも ン状 体験	なっもる	たり、 様子 場面	、逆に も見ら	こ、自られて	ら居いる	室の原 。本 <i>)</i>	扉を閉 人の状	め、i 態に1	が部合り高屋わを	. T

No.	実施日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日3-	1日
	拘束時間																															
17	取組状況	中に ハグ	、リ [・])と」	ラクセ 見守り	^ž ーシ J を実	ョン 施し	夜間・ (バッ た。 未実が	ノク	本中バラ	、リ ラ)と見	ラクセ 見守り	ーシ を実	ョン 施し	(バッ	ック	中にハグ	、リ ラ)と見	ラクゼ 見守り	ーシ を実	ョン 施し7	変間 • (バッ た。 未実施	ク	ゼー		ノ(バ	バック	ハグ)	と見	見守り		リラク 拖した。	
	拘束時間	Е	E	Е	E	Е	Е	Е	Е	Ε	Е	Ε	Е	Е	Е	Е	Ε	Е	Е	Ε	Е	Ε	Е	Ε	Ε	Е	Е	Ε	Ε	Е	E	
18	取組状況	行く 職員 居室	事が。 が見 [・] で取	ある <i>σ</i> 守り対)で、 対応の _フ でい	自立	向課題は	t、 った コは	日行職居開	事が が見っ で取り	あるの 守り対 り組ん)で、 応の _/ でい	自立 上、	課題に 開錠し	は、 した 中は	行く 職員	事が が見て で取り	あるの 守り対 り組ん)で、 応の	自立 上、	向かた 課録は しまり はいまま はいまま はいまま はいまま はいま はいま はいま はいま はいま	t、 た	で、	自立認	果題は	、職	員がり	見守り	り対応	の上、	がある(開錠し してい	
	拘束時間	Е	E																										D		E	
19	取組状況	起床		施錠し			就床か	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	入院	中。						入院	中。						夜間	に退防 、居 り、 か	をから			する重	かきが	見られ	na E	Ł
	拘束時間		В		В	С	D	С	E	E	С	D	D	С	D	D	D	D	D	D	D	D	C	D	D	D	D	D	С	С	В	
20	取組状況	可能を見	な限でい	・ り個別 る。	· 川対応	を行	い、村	美子	可能を見る			」対応	を行り	い、村	、		な限りている]対応	を行い	い、材	€子	可能	な限り	り個別]対応	を行り	ハ、椋	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	見てい	ハる。	

拘束種別: やむを得ず、自分で降りられないようにベッド柵(サイドレール)を使用する

実施月: 令和4年6月の実施状況

No.	実施日							, , ,		I .				-								• •						27日	28日 2	29日	30日3	1日
	拘束時間								Е		С								Α	С												
1		何個をうし	と」用ないッとしるたった。	「変て場」を子更い面起行のこれである。	であ。な時はり夜くも	ない頭はいますが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	から、 側に1 転客に イ	1 点柵 ンそ 沈床	に10んりは頭の、日。、「側	べの」柵も ッ午とをう こ	ド垂を点とは、手冊をは、上手をは、上手をは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	使もよすは付ける	す怖強るい、	の。ん希でら側でまだ望日。に間だもカー」で	引、ありとック	て「よけ夜がなをのいい落。、、、。外使る	るっ」安15本」し用。解。こと全分人とてを会除したがのしえ訳に	「ら話こざいついた義こもなし就けら意る望でつうい、床2「向。し、い	大か頭し点やが19た本で人ら側て柵めあ日の人、	だ大のいをとりはでの行か丈1る使こ、午、状動	点。用う足睡使況制柵18すか側時用を限る。の、し碗半	付の一十十二次記	園の	会議に	こて、	身体	拘束(よ終了	?とな?	5 。		

拘束種別: やむを得ず行う、その他身体拘束に当たる行為(車いすテーブル等)

実施月: 令和4年6月の実施状況

No.	宋 时 间 : オ 	<u> </u>				·		•			• • •		-		-	· · · ·				•		•			• •				27 FI	28 FI	29 FI	30日 31	Я
	拘束時間					· -	ОД	o II	, 1	ОД	I	101		12 [I		101	. / Д	ТОД		201	21 1	22 🛱	201	211	201	год	2, п	201		/	
1		落等リしこ	ち着い としっても でもり	へてきる。	いきノよるるがう	時 が チな 支	「移 、ゆ アー 援に	動のB った「	寺」 少 過 さる	等と リク して	着しラもで、こうもで、 が、イら、	ている できる	時 が チな す	「移 [®] 、ゆ・ アー・ 援に3	動の時 ったり で 変更す	手」 リとご る	落等 リして	しラもで、これで	いきるがよう	時」 だけ チな支	「移 [®] 、ゆ アー 援に	動の かった で 変更す	寺」 りとごる	時 と うな	「移動 クラ・	動の イニン こ変 更	导」等 √グチ	とし、	、でき ーで、	きるだ 過ご	け、にして	いていた ゆらう 未実施 ^で	ノ よ
	拘束時間	С	C		C	С	С	С	С	С	D	D	D	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	С	D	$\overline{}$
2	取組状況	子足あ子るテ可で	上をりご。ル能で振、と転抜性	「丿重伝客館で特別で、「丿重伝客館では、「」	本ろ子しよごいりをすかそりの。解	跳」らう、、見ねとのに骨怪守	上い転な折我りげっ落るやにを	た動き	「き車がテがた」のある上	体落しよ我職をちそりに員	跳そう、つが見ること	レ上こな易が守なトげなるやるりなをてるこ骨可をが	、、と折能行車車がな性い	椅いあどが、 子する、高短 に高い	巫ご。大く時 面と転きな間	ら倒に怪。の	両が子落テつに足保ごし一な、	子を持とたテが見い上振出転際ルる守なていお倒に払っいか	リモ制に 友丁リートなす、管能を ろくる裂な性行	すな可傷どがい動る能や、あ、	き。性骨大る短がまが折き。時	りた高・なそ間、、いい導怪のの	軽車 尿线に解位椅転力にめ除	振こ難我	上がく至れる	て、車 る。そ 車椅子	種特子 から、	上で、 より、 落下	、身体 、座位 しそう	なが なを保 うにな	ウン 持す。 る。!	、ドる大で両さこき、	る が 圣